

ロボカップ 2008 蘇州世界大会レポート

今年で12回目となるロボカップ2008 蘇州世界大会 (RoboCup2008 Suzhou) は、7月14日から20日まで、中国蘇州市のインターナショナルエキスポセンターにて開催された。北京オリンピック直前に行われるイベントという事で、会場入り口には7月以降の中国国内のイベントでの設置が義務付けられたX線検査機が配備され、会場内外にも警官が数多く配置されるなど警備体制は厳重ではあったものの、会場はピリピリとした緊張感に包まれる事なく和やかな雰囲気であった。大会間際までビザの取得に奔走する参加チームもあったものの、31カ国・地域から集まった376チーム、2000人を超える参加者が7日間に渡り、熱戦を繰り広げた。

大橋 健(九州工業大学)、五十嵐広希(電気通信大学)、伊藤暢浩(愛知工業大学)、荒井みちる

エントランス風景 外部

エントランス風景 内部

ヒューマノイドリーグ

今回の見所は、5連覇をかけた Team OSAKA (ヴイストン・大阪大学) と他チームの白熱した試合であった。

昨年まで認められていた180度以上の視野を持つカメラが禁止され、ボールを探したり周囲を確認するためには移動したり首を振らなければならなくなった。

Teen Size では、身長が100cm以上となり大きめのヒューマノイドが1対1でPKを行うので迫力がある。10チームが参加し、日本からは CIT Brains (千葉工業大学) と Team Osaka が参加した。CIT Brains は準々決勝まで進みベスト8、Team Osaka は決勝を制し1位になった。結果からは安泰に見える Team Osaka であるが、準決勝の Nimbro (ドイツ) 戦では、一時リードされあわやというところで逆転して7対6で勝利した。決勝は地元中国の Tsinghua Hephaestus を4対0で圧勝したので、準決勝の Team Osaka 対 Nimbro 戦が事実上の決勝戦とってよい名試合であった。テクニカルチャレンジでも、Team Osaka は完璧なできで1位の実力を見せつけ、CIT Brains も善戦していた。

KidSize では、フィールドサイズが Teen Size と同じ (6m × 4m) になり、3対3の試合になった。24チームが参加し、日本からは CIT Brains、Team Jeap (JST ERATO 浅田プロジェクト)、Team Osaka が参加した。CIT Brains は、1次

予選で Team Osaka と同じグループHになり善戦するも敗者復活戦にまわり、今度は Team Jeap と対戦するという巡り合わせを制し、最終的に7対1で Team RO-PE (シンガポール) を破り3位になった。順調に決勝まで進んだ Team Osaka は、宿敵 Nimbro に接戦の末6対7で破れて2位になった。

KidSize のテクニカルチャレンジでも Team Osaka は障害物回避とドリブルで

1位、パスでもポイントを重ね総合1位として実力の高さを示した。

総合的にみると文句なしに Team Osaka がベストヒューマノイドに輝いたが、接戦を繰り広げた Nimbro、そして善戦した CIT Brains など実力を付けている。TeenSize では迫力ある試合が見られ、KidSize では広いフィールド内で3on3のチームプレーが見られるようになり、ますます興味深いリーグであるといえる。



Teen Size 準決勝：Team Osaka (日本) 対 Nimbro (ドイツ) における Team Osaka のシュート



Teen Size 準決勝：Team Osaka (日本) 対 Nimbro (ドイツ) における Nimbro のシュート



KidSize の3on3の試合の様子